

農村環境対策による学校教育と連携した農業体験学習

今年度も環境保全活動の事業の一環として、学校教育と連携した活動が実施されました。

5月20日の田植え作業では、にかほ市立金浦小学校5年生と地区活動組織会員で、伝統的田植え作業と現在の機械化による実演、及び農業水利の概要を学びました。最後に体験発表を述べ、生育状況を今後も観察していくことを話し合い、秋の収穫に期待をして終了致しました。

今年は、当地域で特に大きな災害もなく、稲の作柄も平年並みで、9月19日に稲刈り作業を実施しました。ほとんどの生徒が刈り取り作業は初めてでしたが、1時間30分くらいで10aの圃場の刈り取りを完了致しました。

その後、刈り取った稲の傘杭掛け作業も体験し、全員で記念写真を撮り、最後に作業の体験発表を行って終了しました。

活動組織では、毎年収穫を喜び合っていたきたいと自然乾燥米を脱穀・米作りして学校に配達しており、1月下旬頃、小学校5年生による「農業体験学習交流会」を開催しておりました。今年は学校内のインフルエンザ予防（風邪）等の事情により中止になってしまい大変残念でしたが、来年度も継続して実施していきたいと思っております。



活動体制	
実施主体	飛地区環境保全活動組織 代表 佐藤 正春
後援・連携	水土里ネットにかほ（にかほ市土地改良区）、にかほ市金浦小学校、にかほ市農林水産課
実施期間	4月～1月
参加者	田植え作業55名・稲刈り作業60名
報道関連	にかほ市企画広報班
活動実施年数	12年（H15年～）
連絡先	〒018-0311 にかほ市金浦字花瀧93-1 にかほ市土地改良区 TEL. 0184-74-5496
その他	県奨励賞（H19）県知事賞（H23）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットにかほ（佐藤 正春）					
○活動の目標及び達成率	目標	農業体験学習を通じて学校教育と連携を図る			
	達成率	80%			
○活動に対する評価	12年目に入り充実してきている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	取り組みの継続はしているが他団体連携はない。
①役職員・組合員の参加	A	組織体制は充実してきている。	③運動の計画性	B	概ね理解されている計画になっている。
②後継者育成の工夫	C	地域の高齢化により難しい状況である。	4. 運動の成果		
2. 活動の意義性について			a. 組織活性化	B	概ね組織の活性化になっている。
①基本理念の設定	A	目標を立てて取り組んでいる。	b. 地域農業	C	至っていない。
②地域の歴史等の伝承	A	水土里ネットの特徴を生かした活動になっている。	c. 地域コミュニティー	A	概ねコミュニティーが図られている。
③運動の先駆性	B	基本理念に基づいた運動になっている。	d. 地域資源管理	C	学校とは密接に関わっている。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	A	総合的に無理のない運動になっている。	・組織も高齢化しているが、できる限り支援していきたい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他